

## 平成 28 年 11 月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

11月の業種別景況の前月比DI値は、14業種の中で4業種が好転、前月同等が8業種、悪化が2業種で、全体の景況感も若干好転している。

一般機器や輸送機器の受注が比較的堅調であるほか、季節の受注も若干伸び売上が増加しているとの報告もみられるが、人員・人材不足が続いており収益に影響があるとの報告もあり、県内中小企業の景況感、先行きが読み難い状況となっている。

### 山口県の主要指標 DI 値（平成 28 年 11 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況 ( < 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 > )

前年同月比は、好転： 5.3% 悪化：27.5% DI 値：▲22.5% ポイント

売上高 ( < 増加 > - < 減少 > = < DI 値 > )

前年同月比は、増加： 8.8% 減少：30.0% DI 値：▲21.2% ポイント









収益状況 ( < 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 > )


前年同月比は、好転： 3.8% 悪化：23.8% DI 値：▲20.0% ポイント

### 山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 28 年 11 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲42.9	▲25.0	▲33.3	▲50.0	▲66.7	0.0	50.0	▲27.3
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	その他	全 非 製 造 業
▲20.0	▲33.3	▲50.0	▲18.2	0.0	▲14.3	0.0	▲19.1
							

全 体
▲22.5


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	12月は繁忙期であるが、アルバイトの確保が困難な状況にある。特に営業時間が早朝から夜までで土日の無い公共交通機関売店の販売員の応募が少ない。	パン・菓子製造業
	雇用情勢が引き続き厳しい。	
	対前年同月比▲19%の大幅ダウン。大河ドラマ効果の反動による売上の減少が依然と続いている。10月から11月にかけてテレビ朝日系「食彩の王国」や「メレンゲの気持ち」、日本テレビ系「ZIP」などの大型全国放送番組で紹介があった。11/20東京日比谷公園で開催された「FISH-1グランプリ」にて、当館出品のオイルルージュがファストフィッシュ部門で準グランプリを獲得した。	水産食料品製造業
	商品の動きが鈍く、全体的に景気の悪い雰囲気が出ている模様。	
長雨が続きで、作物の生育の遅れが懸念されている。地球温暖化に伴う異常気象のせい、東日本では大雪になるなど、企業経営への天候リスクがさらに高まってきている。突然の自然災害へ対応できるようなインフラの整備を進めることが、重要になってきている。	精穀・製粉業	
繊維工業	主力販売取引先の受注増加により来年4月末までの受注量がある。外国人技能実習生の受入は、現在、中国人20名、ベトナム人37名の計57名。求人について相変わらず最悪な状態で、新たに民間広告情報誌にて求人活動開始し、新聞折り込み広告も検討中。	下着類製造業
	店頭の販売不振が続いている模様であるが、製造側としては前年に比べて変化はない。	
	11月の中旬くらいから店頭の売れ行きが悪く、納入先からの受注量が減少している模様である。現在のところの仕事はまだあるが、来年は厳しそうである。	外衣・シャツ製造業
	現在も業界全体的に不安定な受注状況が続いており例年になく厳しい状況であるが、1～2月納期の受注は前年並みに回復しそうである。年内に資材等が揃い、年明けからは前年並みの生産に戻りそう。	
木材・木製品	前年と変わらず推移している。	製材業・木製品製造業
	秋の需要と公共工事の受注により、操業度・取扱高ともに上昇傾向。	

印刷	<p>12月はチラシ印刷の繁忙期だが、11月末の時点でたくさん受注がある。</p> <p>設備操業度にむらがあり、機械が動いてない日がある。</p>	印刷
窯業・土石製品	<p>11月の出荷量は、  (平成27年10月)骨材92%、路盤材145%、再生材 76%  ↓  (平成28年10月)骨材75%、路盤材 74%、再生材112%  昨年比べて一気に出荷数量が減っている。来年まで続くと思われる。</p>	砕石製造業
	<p>出荷量は、前月比104%、前年同月比83%。(前年度は105%)4月～10月までの出荷量は、前年同期88%(前年度は99%)現時点、セメント・骨材等の資材調達で特に問題は生じておらず、生コン価格も安定している。</p>	生コンクリート製造業
	<p>今年はどういう年で石材業界には厳しい年となったが、若干ではあるが来年の仕事依頼が入ってきている。今年の内に加工作業をして、年明けから現場作業に取り掛かれるような体制を取って行きたい。</p>	石工品製造業
	<p>萩市内においては、萩ふるさとまつり・時代まつりが11月12日～13日に開催され多くの人出で賑わった。週末のホテルは満室という話を聞き、土日はある程度の観光客はあるが、昨年と比べ平日の個人客が少ないように思う。売上も昨年同時期に比べ落ち込んでいる状況。組合が商品を提供している浅草のアンテナショップは、11月の売上は、先月と比較してほぼ横ばいといったところ。関東方面の百貨店や陶器店からの受注に関しても、11月に入ってから昨年と比較して動きが鈍く減少傾向。百貨店全体の売上自体も昨年と比較しかなり落ち込んでいるとのことで、この状況も致し方ないところ。</p>	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	<p>組合員で景気感には温度差があるが、金型関係は順調で、海外工事関係は受注が回復してきている。組合全体としても受注が若干伸びてきている。</p> <p>機械検査、機械加工関係の下請け企業の受注状況は安定している。惣菜、自動車、造船関係は好調で残業も多い。(組合としては36協定の遵守を指導している。)しかし、自動車関係は年末から厳しいとの情報もある。食品加工、食肉加工業、溶接関係、惣菜等は、引き続き人材の確保が困難であり、外国人技能実習生受入の増員や新規受入の相談があり、特に惣菜関係の人手不足は深刻である。年内での制度改正が見込まれることから、介護施設との協議を開始</p>	一般機械器具製造業

	した。大きな需要になる可能性がある。	
	売上高は微増である。	
	金型生産設備の操業度は10月に比べ上昇しており、12月納期分を残業で対応している。製造部の人員が1名減員となり他部署からも応援している。来年春には新卒1名の採用が決まっており何とかして育てなければと、新人の教育計画等準備を進めている。現時点で、来年の3月末分までの受注は確保できている。職種をみると、自動車、ロボットの電気モーター関連が忙しい様子。成形製品の生産設備稼働率、受注状況ともに昨年同時期よりは増加傾向にあるが、年末、年始の自動車関連の長期休暇など稼働日数が減る影響や、民生部品関連など受注増減が激しく、年始以降は読みにくい状況である。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	鉄道車両部門は長期生産計画に基づき順調に作業量を消化している。精密加工部門の心配されていた落ち込みも少なく前年並みの作業高で推移している。プラント部門の受注が伸び悩んでいるのが課題である。	鉄道車両・ 同部品製造業
	人員・人材不足が続いている。	船舶製造・修理業
卸売業	「いりこ」の入札が終わり、売上高は前年同月比▲14.7%となった。9～12月は出庫の方が多く、お正月用のお節関連が増加しており他海産物の入庫が少ない。解凍機械の使用時間を制限したり、深夜電力のフル稼働等により経費節減に努めている。	乾物卸売業
	「ふく」の価格はまだ高く量も少ない。天然・養殖ともに12月に入ったら好転するものと思われる。	生鮮・魚介卸売業
	後半から気温が下がり、冬の商品の売上が増加。年末商品の売上に期待している。	各種商品卸売業
小売業	中旬に業界の全国大会に出席したが、化粧品業界の売上は前年割れのお店が多く、業界の全国的な問題は専門店の減少と後継者問題とのこと。山口県は比較的若い後継者が多いが店舗数は減少しており、現経営者は利益が出ないため継がせたくない模様である。全国大会ではメーカーに対して利幅の増加を要望した。	化粧品小売業
	組合として12/5～10まで年末商戦となるが各店売上の増加を目指している。2店の電気店も売出しセールを行い集客をはかる模様である。地区の中小企業者は年末を控え小売食品業は低調、車関連協力工場は良好で推移している。土木・建築も愛宕山防衛関係の仕事で順調。年末の政策金融公庫資金調達の相談はあまり無い。秋冬物衣料品は寒くなり多	各種商品小売業

	<p>少動いている。由宇町中央フード跡地にウォンツが出店することに決定し、来年2月に開業の予定で、消費者は歓迎しているが、薬局やその他小売店には影響が出る。</p> <p>中心市街地への来街者の減少傾向が続いている。</p> <p>売上は前年同月比でプラスマイナスゼロのほぼ同額。中心商店街への人出も相変わらず少なく、特に冬物の衣料が売上不振の様子である。</p> <p>先月同様 客数、売上とも前年を下回る状況です。</p>	
商店街	<p>前年度は郊外大型店の増床もあって売上が大幅にダウンしたので、数字だけ見れば各店舗の売上状況は増加となっている。再度顧客ニーズの洗い直しをしている。冬物シーズン・歳暮商戦の強化、冬の山口デー（12/10～10日間）は趣向（企画）を変えて実施、湯田温泉に宿泊の訪日外国人旅行者や国内旅行者の商店街への誘客も検討する。</p> <p>衣料品店の売上が増加している。生鮮野菜は種類によって値段の上下があり販売価格の設定が難しい模様である。他の業種は売上が上がらない状態であるので、年末に向けての仕入の見込みが難しいとのことである。</p>	<p>山口市</p> <p>萩市</p>
サービス業	<p>前半はゆっくりとした客足だったが後半は持ち直し、このまま順調に年末へとつながって欲しいところである。安売り店が増加している中でも、しっかりした経営をしている店舗においては影響が少ないように思う。</p> <p>業界全体も厳しい状況の中、年末に期待したい。</p> <p>本年4月から外国人技能実習制度で自動車整備が対象となったことを受け、全国に先駆けて広島県内の大型車を取り扱うディーラーで外国人技能実習生の受入が開始されることとなった。これは、外国人が日本のすぐれた整備技術を学び将来帰国後に母国の整備事業の拡大を図ること、また、日本の整備業界で人材不足が深刻化してきており外国人を活用する狙いがある。なお、山口県内での整備士人材不足の深刻な状況は今のところ耳にしていないが、ベトナムなど実習生を派遣する会社から問い合わせが来ており、今後、県内においても受入する整備工場が出てくることも予想される。</p> <p>人手不足が続いている。賃金を上げていかないと人が確保できない。</p> <p>宿泊人員及び売上額は100.3%と前年並みで推移。インバウンドについては休前日の宿泊を希望客が取り込めず、他市に流れている。当温泉地の休前</p>	<p>美容業</p> <p>理容業</p> <p>自動車整備業</p> <p>スポーツ・健康教授業</p> <p>旅館業</p>

	<p>日はほとんどが満室となっており、平日の宿泊者をいかに増やすかが今後の検討課題である。</p> <p>円高となりインバウンドのお客の減少。造船業が大型船から中小型船へ方向転換したことにより長期滞在の職員の宿泊が減少している。海響マラソン参加者の宿泊が昨年より大幅に増加した。</p> <p>施設利用者（入浴者数）の減少が続いている。イベント等の開催で、売上は前月と同額となったが、厳しい状況は継続中。</p>	
	<p>野菜の高騰が収益状況を悪化させている。産地ごとで価格に対する生産調整はされていると思うが、天候不順はどうしようもない。料理店、仕出し店ではおせち料理の予約の真っ最中だが、予定販売価格で収まるかが心配とのこと。飲食業界は初の試みとしてデスティネーションキャンペーンに向けて、「薄造り文化」を提唱し県内6地域のブランド品作りを模索しており、それなりの盛り上がりを見せているが、全てはこれから。アメリカの大統領が大逆転してTPPは承認しないと。食材事情はグローバルに展開し地方食文化にも影響を受けるが、TPPはどこへ行くのか新たな混沌の時代に突入したといえる。中国人観光客の爆買いは一段落したが、ネットで探しこんなどころまでと思うところに押しかけている。</p>	飲食業
	<p>前半は、寒くなる準備で冬物衣類が若干出たが、低価格のアウトターの使い捨て傾向が強い状況が続いているようで、例年に比べ冬物の駆け込み需要は減っている。しかし高級品（ブランド物）が徐々にではあるが増えているように感じている。新たな売上創出ということで、青年部主催でリフォーム講習会を開催。今後の展開に期待している。</p>	普通洗濯業
建設業	<p>10月の山口支部中電への工事申請は139件。太陽光発電への申請23件、オール電化申請32件、LED街路灯への切替・新設申請6件であった。</p>	電気工事業
	<p>年末・年度末の工事量もそれ程多くはないと予想される。忙しい事業所もあるが、それは雇用している技能者が減っているためである。技能者不足が喧伝されていたため、技能者をあまり必要としない工法を採用する仕様が aumentando している。</p>	左官業
	<p>組合員は受注分の工事を順調に行っているが、相変わらず人員不足となっており人がいない分とても忙しい。ガソリンは少しずつ上がって来ている。工事関連業界の先行きはオリンピック需要や震災復興需要のある当面は、この状態であろうと考えている。</p>	管工事業

	<p>年末に向けて、木造家屋の建築着工件数が前月並みの水準であり、各店とも忙しい模様。組合員向けに「軽い屋根より丈夫な家」のセミナーを開催する。このセミナーは、地震による建物の倒壊は瓦が重いせいではないこと、丈夫な家を造るための方法、建築基準法・耐震診断方法等を学んでもらい、地震による瓦離れの危機感を持ち、理論武装してもらうことが目的である。しかし、組合員の危機感は余りなく、関心を持ってもらうことに腐心している。</p>	<p>屋根工事業</p>
	<p>年度末の工事が動き出し、来年2月までは好調ではないかと思われる。</p>	<p>内装工事業</p>
	<p>柳井地区においては、柳井市の公共工事の発注が多く少しは、柳井市内の業者は助かっている。上関町は中国電力の発注工事があり少し助かっている。田布施町、平生町は苦戦している模様。</p>	<p>土木工事業</p>
	<p>久々に少し受注したが、昨年よりは少なかった。</p>	
	<p>11月の受注高は、対前年同月比13%。年度の累計は対前年比76%。</p>	
<p>運輸業</p>	<p>鉄鋼素材の中近距離輸送は順調に推移、長距離輸送はやや下向、輸出関連は横ばいとなり、差引プライゼロ。ドライバー不足による収益への影響は少なからずあり、経営は依然として厳しく、時間短縮や同一賃金等は現実的でない。油関係は1.8円の値上げ。軽油引取税を何とか改善して頂けないものかとの声が相変わらず多い。</p>	<p>一般貨物自動車運送業</p>
	<p>前年並み売上の見通し。業況が上向いたのではなく、前年同月から下方にむかっており依然として業況は芳しくない。燃料単価は低位にあるがジワリジワリと上がっている。乗務員不足も改善されていない。</p>	
	<p>運送は先月に引き続き関西方面の荷物がそこそこあるようである。倉庫業においては預かりの物量が増えてきているようだ。これから年末商戦に向けて食品関係の輸送の増加が見込まれる。人員不足が相変わらず続いている。県内の有効求人倍率も1.4に達しているが、物流業のような仕事には中々人が集まらない。</p>	
	<p>観光シーズンに入り観光の予約が入っている。当日申込みの観光は年毎に減っているように思う。通常の配車についても得意先が高齢になるとともに減っている。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>

	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲0.9%（平成28年10月1日～平成28年11月20日分）。10月1日～31日分は▲4.0%、11月1日～20日分は+3.7%で、少し回復傾向にある。当組合の取扱いは、光市，下松市，周南市，防府市の地域で、10月分については、周南▲3.8%，下松▲6.7%，光▲3.8%，防府市地区が▲5.2%と、組合員の全域で▲4.4%、地区外（員外）+2.6%で合計▲4.0%となり、大手工場や病院の利用金額が、全体として減少した。地元ホテルの宴会部門の縮小や、湯野温泉の老舗旅館の倒産等、明るいニュースが乏しい状況。昨年11月が大幅に減少した事や、11月初旬に防府競輪で大きなレースがあった事、郡部診療所（員外タクシー会社）の受託（請求）があった事により、今月は前年比がプラスになっていますが、前月分を含めれば前年同期並みの売上げが「やっそこさ」に思える。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動するが、ブタン，プロパンのCP上がり（前月345\$/トンが今月405\$/トン）、為替が円安になったので前月より+7%となった。前年11月分に比べると▲6%だが、冬場の需要期を向かえ不安要素となりつつある。今月後半の売上げで前年同月よりプラスで推移できるかどうか、年末の繁忙期を控え心配である。全体の状況を見ると、景気回復の実感は、まだまだ乏しい状況。</p>	
	<p>今月もなお、取扱高の伸びは無い。</p>	<p>港湾運送業</p>
<p>その他非製造業</p>	<p>安定した取引が続いている。管理規定等の整理に着手している。</p>	<p>介護事業</p>